

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数			
放課後等デイサービス	(対象者数)	219	(回答者数) 129
児童発達支援	(対象者数)	62	(回答者数) 50
保育所等訪問支援	(対象者数)	28	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 27
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 8日 ～ 2026年 1月 31日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 26
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりの特性や状況を丁寧に把握し、それに応じた柔軟な支援が行われている点が大きな強みである。特に、視覚的な支援や見通しを持たせる環境設定により、子どもが安心して活動できる基盤が整えられている。	活動内容については、発達段階や当日の状態に応じて柔軟に調整し、固定化を避けながらも必要な反復課題を取り入れるなど、バランスの取れた支援が行われている。	支援の質をさらに高めるためには、既に実施している取り組みの「見える化」を進め、保護者や関係機関に対してより分かりやすく伝える工夫が求められる。
2	保護者との情報共有や日々のフィードバックが充実しており、共通理解が図られていることも高く評価されている。	ホワイトボード等を活用した視覚的提示や環境の構造化により、子どもが安心して行動できるよう配慮している。	プログラム内容や支援の意図についての説明を強化することで、納得感や安心感の向上につながると考えられる。
3	訪問支援においては関係機関との連携を通じて、現場に即した助言や支援が提供されており、実践的な価値が認められている。	保護者や関係機関との連携を重視し、情報共有の機会を積極的に設けることで、支援の一貫性を高める取り組みが継続されている。	訪問支援においては、限られた時間の中でも効果的な情報共有ができるよう、連携方法や伝達手段の工夫を進めていくことが重要である。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	物理的なスペースや設備面において、十分とは言い切れない部分があり、活動内容によっては窮屈さを感じる可能性がある。	課題の背景としては、限られた人的・物理的資源の中で多様なニーズに対応していることが挙げられる。	限られた空間の中でも快適に過ごせるよう、環境設定や活動の運用面での改善を継続していくことが求められる。
2	一部の取り組み(防災訓練やマニュアル、交流会等)については、実施しているものの利用者側に十分に伝わっていない場面が見られる。	日々の支援に重点を置く中で、情報発信や周知に十分な時間を割きにくい状況も一因と考えられる。	今後は、既に行っている取り組みをより分かりやすく伝えるための情報発信の工夫が重要となる。具体的には、周知方法の見直しやタイミングの工夫などにより、利用者が必要な情報を受け取りやすくする必要がある。
3	保護者支援や交流機会については、参加のしやすさやニーズの多様性への対応に課題が残っている。	利用者ごとに求める支援内容や関わり方が異なるため、すべてのニーズに一律に対応することが難しい点も影響している。	保護者や関係機関との連携を一層深め、意向や状況を踏まえた柔軟な対応を積み重ねることで、より質の高い支援の実現を目指していく。